

支援の思い 筆に

「朝日チャリティー色紙展」を2月1日から14日まで開きます。各界の著名人や漫画家、イラストレーターの方々から寄贈された色紙約90点を、インターネット上で展示し入札販売します。ご協力くださった皆様に厚く御礼申し上げます。

収益は、能登半島地震の被災者支援、児童養護施設や里親家庭、自立援助ホームで暮らす子どもや若者のための奨学金、認知症の人や障がいのある人を支える取り組みなどに活用いたします。

(朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社主催)

来月1〜14日 ネットで展示

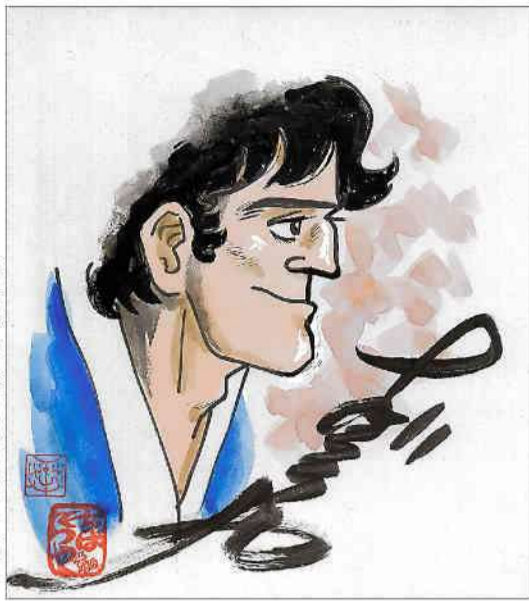
◇2月1日(日)午後1時〜14日(木)午後1時
 ◇全作品を朝日新聞厚生文化事業団ホームページで展示、入札販売します。期間中は入札を常時受け付けます。
 ◇作品ごとに2万〜35800・78580円以上の希望金額(千円単位)でお申し込みください。落札された方には、14日夕刻以降に連絡いたします。落札後はいかなる理由でもキャンセルできません。販売目的での参加は固くお断りします。
 ◇問い合わせ 事業団(0550-35800・78580)

寄贈して下さった方々

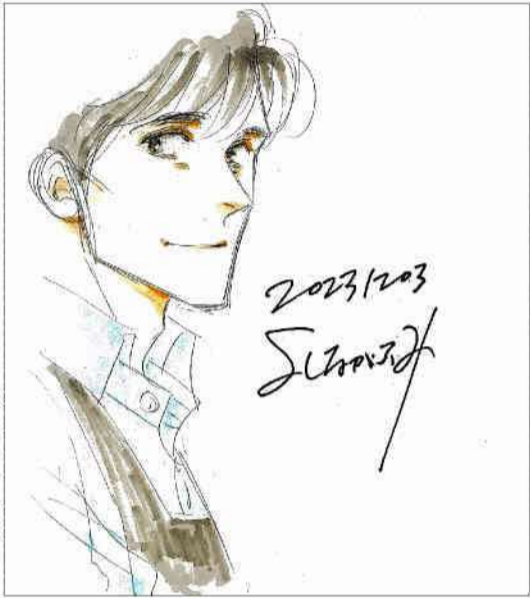
藍弥生、朝乃山、石黒雅矢子、伊東豊雄、伊藤秀男、上野道善、上村貞郎、うすくらふみ、宇野亜喜良、嵯原あきら、岡田彰布、片山治之、かわぐちかいじ、河村勇輝、北見けんいち、きむらゆういち、清原なつの、小林有香、小山愛子、齊木久美子、坂上暁仁、佐々木朗希、佐藤邦雄、シゲタサヤカ、葉舟、下瀬翠、釈徹宗、住野よる、seko koseko、千玄室、千宗室、千宗守、千宗巨、高瀬志帆、高田明浦、高橋健太郎、多川俊映、田中征三、谷口智則、田臥勇太、ちばてつや、趙治勲、tupera tupera、にごたる、西村敏雄、野村俊夫、樺笑問題、橋本環奈、長谷川義史、羽生善治、はまのゆか、比江島慎、ヒサクニヒコ、ビートたけし、まつおりかこ、美樹本晴彦、藤田木陽、三田紀房、三好貴子、村上康成、森清範、やくみつる、安彦良和、矢部太郎、山口哲司、山口マサル、山下浩平、山中伸弥、山村浩二、山村東、よしながふみ、藤田やすひろ、和久井健



小林有香「アオアシ」(寄贈者)



あはれ(カ)石徹「あしたのジョー」(寄)



よしながふみ「さのうへへ来た？」



ビーター「ロイヤル」



山下浩平「ミラクミックと...」



佐々木朗希「未来」



和久井健「東京リベンジャーズ」



まつおりかこ「いつごろさぎのきってん」



高瀬志帆「二月の勝者」



伊東豊雄「EXPO'25 Grand Theater」



岡田彰布「道一筋」



嵯原あきら「tono」



シゲタサヤカ「たべものやさんのなかまたち」



橋本環奈「失敗は成功のもと」



「ママたちのルーム」セコ・コソコ



釈徹宗「常照我」



きむらゆういち「虎の私」



九尾の如の「如龍」羽生善治「玲瓏」



葉舟「威る」



安彦良和「機動戦士ガンダム」セイラ 法皇



矢部太郎「こきげんどう」

朝日新聞厚生文化事業団について

朝日新聞厚生文化事業団は、1923(大正12)年の関東大震災で朝日新聞社が行った救援活動をきっかけに、28(昭和3)年に発足した。

糧や金品、医療の提供から始まり、社会の変化に合わせた幅広い福祉事業や、災害救援に取り組んできた。終戦直後から事業の柱と位置づけた、施設で育つ子どもたちを支える事業は、初期の旅行やキャンプへの招待、施設を築立つ子どもへの布団贈呈から、奨学金に形を変え今も続いている。

活動資金は寄付金に加え、コンサートや美術展など、各方面と協力してのチャリティー事業の収益で賄っている。

世界的な経済不況に見舞われ困窮している人々への食



寄贈された主な色紙

